



# 明和病院だより



2019年12月号

★ 年末年始休診日のお知らせ ★  
 12/28(土)～1/3(金)の期間、  
 休診となりますのでご了承ください。

## (1) 新任医師のご紹介 (令和元年12月1日付)

★総合診療部 <sup>くろこうち</sup> 黒河内 和貴(院長補佐 兼 総合診療部統括部長)

12月より明和病院に勤務させていただくことになりました、黒河内和貴でございます。幼少期より高校まで西宮で過ごし、香川大学 → 島根大学を経て、この度西宮に戻って参りました。内科全般を総合的に診ながら、内視鏡検査・治療や肝臓治療なども行っていけたらと思っております。よろしくお願いいたします。

・専門：内科一般、消化器肝臓内科

## (2) 診療放射線技師から皆様へ〈レントゲンの日〉

皆さん、11月8日は、何の日かご存知でしょうか？調べてみますと、「いい(11)は(8)」の語呂にちなんで、日本歯科医師会が記念日に制定した『いい歯の日』であったり、ハサミや包丁を商う業界団体が記念日に制定した『刃物の日』であったりと、さまざまな業界が記念日や出来事を制定しております。

実は、診療放射線技師である私たちにおいては、とても大事な日なのです！

今から124年前の1895年11月8日にドイツの物理学者ヴィルヘルム・コンラート・レントゲン (Wilhelm Conrad Röntgen) 博士が、偶然にもX(エックス)線を発見しました。

レントゲン博士は、この謎のX線に強い物質透過性があることを知ったのです。彼は、この謎のX線“未知の光線”に、“未知”を意味する“X”を付し、X(エックス)線と呼びました。



その後、アンナ・ベルタ夫人の手のX線写真を撮影(実は、X線を15分間も照射)することに成功し、これがよく見られる世界初のX線写真です。

薬指にある黒く見えている陰影は、金の指輪で、金はX線を吸収するため黒く見えているのがわかります。



夫人はこの写真を見たとき、「自分の死体を見た気分だわ!」と叫んだという逸話があるとされています。

この写真を見ると、金属はX線を強く吸収して透過させないために写真の上では黒く見えており、現在の見慣れているレントゲン画像と異なり、当時のものは白黒逆転した「反転画像」だったようです。

X線によって、人体にメスを入れることなく人体内部が観察できるという事実は、またたく間に世界中に広がり、医療で利用されるようになりました。日本でも、X線が発見された翌年1896年に島津源蔵氏によって、手のX線写真撮影が行われました。このX線が発見されなければ、今の医療は一体どのようになっていたのでしょうか・・・

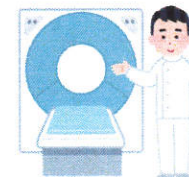
このX線に代表される放射線は、医療や科学の発展へ大きな貢献をもたらしました。特に、医療分野においては放射線の利用なくして現在の医療は成り立たないといっても過言ではありません。

11月8日は、国際的に「レントゲンの日」と称して、各国の放射線学会が連携して記念イベントが開催されております。日本では、日本医学放射線学会が2012年より記念行事を行っています。ぜひとも、11月8日は、“レントゲンの日”だということを頭の片隅に留めていただけると幸いです。

放射線部 / 明和キャンサークリニック 放射線治療科技師長代理 春井 章吾

## (3) 医療講座(公民館主催)のお知らせ

- ・演 題 : 病院で行われる放射線(レントゲン)検査  
 ～大きな装置でいったい何を見(診)ているの?～
- ・講 師 : 放射線部 技師長統括 樽岡 照知
- ・日 時 : 12月5日(木) 14:00～15:30
- ・場 所 : 鳴尾東公民館(Tel. 49-1300) ※無料(参加自由)



(編集発行人 事務部長 沖田 明弘)